

城陽市障がい者自立支援協議会

第5回 就労部会報告書

報告者 部会長 ものづくりスペースみんななかま竹内 仁

平成 24 年 5 月 31 日

標記について下記のとおり報告します。

日 時	2012 年 5 月 31 日(木)
場 所	城陽市福祉センター 第 2 会議室
出 席 者	宇治支援学校(進路部長 1 名)、就労促進・授産支援ネットワーク(代表 1 名)、障害者支援施設あんびしゃ(2 名)、城陽作業所(1 名) ワークショップ野の花(1 名)、ものづくりスペースみんななかま(3 名)
オブザーバー	福祉課(1 名) 参加者数 10 名
検討課題	①福祉情勢・就労に関わる情報の共有。②障がいのある人の就労保障と工賃アップを柱に 2012 年度就労部会で取り組んでいくことを確認する(方針の確認)

【議事録】

1、福祉情勢・就労に関わる情報の共有。

- ・ 障害者の収入 100 万円以下が 56%という状況。この課題を就労部会での取り組みによる所得アップという形で解消していければと考えている。
- ・ 山城北圏域就労部会の報告。
 - * 丹後障害者自立支援協議会が取り組んでいる「ウォームカンパニー」、山城北圏域でどのように取り組んでいくか。
 - * 山城北圏域内、各市町村の就労部会の繋がりをつくっていく。

2、障がいのある人の就労保障と工賃アップに向けて。(2012 年度の活動方針として)

- ・ 就労促進・授産支援ネットワークの実践。(城陽市内 7 つの就労系福祉事業所が集まっているネットワーク)
 - * 自主製品の販路拡大として、城陽市役所庁舎内の販売回数が月 1 回から月 2 回になった。(第 2 木曜と第 4 木曜)
 - * 喫茶事業の取り組み。城陽市商工会議所の支援のもとアクティ商店街にある店舗を借りて喫茶事業を計画。喫茶事業とおして、障がいのある人の工賃アップとコミュニケーション力向上から労働意欲を高め一般就労へと繋げていく。
 - * 意見として→城陽市商工会議所等と連携を強化してプロの意見を聞きながら進めていくことの重要性、②関係者の会議等積極的に喫茶店を活用してもらい呼びかけ必要等の意見がでた。
- ・ 企業との連携
 - * 2011 年度第 4 回就労部会で講師にきていただいたアグティの実践を参考に企業との連携を強化し受注仕事の安定、企業就労へのルートを広げていく。
 - * 具体的には、先ず就労部会に企業関係者(商工会議所・中小企業家同友会等)の参加要請をしていくことから始めていく。
- ・ 自主製品販路確保に向けた取り組みとして。
 - * 企業・団体等へのプレゼンテーションの場の設定。(京都ほっとはあとセンター参考)
 - * 意見として→①企業側から「こんな製品ができるのか」という注文に対応できるようにしておくことが求められる。②生産量への対応と納期の厳守が絶対条件となる。
- ・ 福祉事業所 就職フェアの実施。
 - * 進路を決める場の一つとして実施。
 - * 山城北圏域ではすでに福祉事業所の全体説明会を実施しているが、個別対応的なものとして実施。(全体説明会は宇治支援学校と八幡支援学校で実施している)
 - * 意見として→①実施時期については年間で何回か実施してみてもいいのではないかと。②丹波地域でそのようなことをやっているのだから連携をとって見ては。③誰を対象にするかがイント、それによってどこが主導で進めていくかが決まってくる。

3、新法制定(総合支援法)とあわせて、障がいのある人の就労支援の仕組みについて探求及び、学習していく。

※配布資料添付のこと